

文科學術談話會々誌

目次

講

演

樺太の沿革

文科四年

中大池村きよ重

研

究

我國の人名に就て

文科四年

杉敏介

シヨツペンハウエル、ラスキン  
の女子問題に就ての所感

文科四年

千葉安良

文

苑

(漢文)

送卒業生諸姉序

文科四年

竹田道子

紀京畿遊覽(承前)

文科四年

竹田倭子

(國文)

私の観る雪

文科四年

堀尾トメ

修養	文科四年	櫻井藤枝	六六
山の火	文科四年	長谷川すが	六七
雨の日	文科四年	武藤キョシ	七一
(短歌)			
街の道		柴	七三
題いろく		舟	七四
報			
本會記事			八一
學術談話會規定			八二
地理教授上注意すべき事項			八三
交詢			
母校だより			八四
諸報告			八六
附録			
各科參考書目錄			八七

# 文科學術談話會々誌

第貳號



講演

## ◎樺太の沿革

白河樂翁公は「こと船のよるてふ事を夢のまも忘れぬは世の寶なりけり」とよまれ又水戸烈公も「箱館の關のふせ守心せよ波のみよする世にしあらねば」と言はれたり、實に當時に於ける卓見なり凡そ國家に外國の刺戟あることは其進歩發達上幸なることにて殊に歴史上にては外國との關係によりて益々複雑にかつ興味を有するに至るものなり、我國に於て外國と外交政策的關係を惹起せし嚆矢ともいふべきものは樺太問題これなり徳川初代に始まり幾多の困難なる交渉ありたる後遂に日露戰爭の結果公然我國は年來の主張を貫徹することを得たる光輝ある外交なり今ここに至れる大要を述べんとす。